



大輪の花火が夜空彩る

8月10日に毎年恒例、前橋花火大会を開催しました。前橋の夏といえばこのイベント。今年も多くの観客が利根川河畔に集まりました。800mの幅いっぱいに打ち上がる花火や大玉の花火。体の芯まで響く数々の花火に、会場からは絶え間なく歓声が上がっていました。



空襲の記憶舞台で継ぐ

8月3日・4日に昌賢学園まえばしホールで市民ミュージカル「鎮魂華」を上演しました。この作品は前橋空襲を題材としたミュージカル3部作の最終章。戦争に翻弄される日米の人々の生き様を総勢83人の市民らが熱演し、観客に大きな感動を与えました。



ロボットの技術腕試し

8月17日、総合福祉会館でまえばしロボコンを開催。県内外から217チーム約540人が参加しました。今年のテーマはラグビー。自作のロボットでラグビーボールに見立てたペットボトルを運んでトライ、発射してゴールキック。白熱した戦いに会場は大いに盛り上がりました。



上泉伊勢守顕彰会副会長
閑野房次さん 79歳
上泉町

地元の偉人を知ってほしい



新陰流流祖祭（関連記事4ページ）実行委員会の副会長を務める閑野さん。新陰流の流祖・上泉伊勢守信綱の知名度向上のため、さまざまな活動に取り組んでいる。

「新陰流は数ある剣術の流派の1つで、上泉伊勢守信綱によって1560年代に成立しました。活人剣といって相手の動きを利用しながら戦うのが特徴です。剣道と違って防具がない分、目力や気迫を直に感じられるのが、観戦していて感じる魅力ですね」

上泉伊勢守は2年前、1話完結のドラマが放送された。ドラマ制作に向けたロケハンでは、閑野さんが中心となり

テレビ局の制作班を案内した。「思い返せば本当に大変でした。信綱ゆかりの地を100カ所以上、150日間かけて回って。それでも、全国で見てくれる人がいると思うと頑張れましたね」

ドラマ放送後、上泉町自治会館にある信綱の銅像を遠方から見に来る人や、その年の流祖祭に多くの人が訪れ、反響は大きかったという。

「ドラマは映像や音で訴えかけられます。時期は未定ですが、今度は連続ドラマ化に向けて動き始めています」

地元の偉人を世に発信し地域の活性化につなげるため、閑野さんの取り組みは続く。



地球温暖化防止のため、環境にやさしい行動や製品を賢く選ぶ取り組み「クールチョイス」。このコーナーでは、いつもの生活をエコに、お得に変えるヒントをお届けします。今回のテーマは「宅配便の再配達防止」です。



Vol.3
環境政策課
☎027-898-6292

ネットショッピングの普及や、個人で物品の売買ができるフリマアプリの登場で、宅配便の取り扱い個数は急増。再配達となってしまう荷物は、全体の約2割を占めています。再配達のためには、年間で全国の宅配ドライバー約9万人分の労働力が必要。業界の人手不足や配送トラックからの二酸化炭素排出は、深刻な社会問題であり、大きな経済的損失でもあります。

再配達の原因として最も多いのは、配達が来ることを受取人が知らなかったというもの。配達日や時間帯を指定し、確実な受け取りを心掛けましょう。また、受け取り場所を工夫することも効果的。集合住宅や公共施設に設置されている宅配ボックスや、コンビニ・配達所受け取りを利用し、外出のついでなど好きな時間に荷物を受け取ることができます。

再配達防止に関する取り組みが業界内で進む一方、受け取る消費者側の意識や行動は、まだ十分とはいえない状況です。郵便受けの中の不在票をゼロにするために、その荷物、一回で受け取りませんか。